桃花源記

名前（　　）　日づけ（　／　）　できた数（　／28）

使い方　書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**山は「遠近を忘る」「豁然として開朗なり」「黄髪垂髫」の意味、「便ち」「乃ち」、「無論」と「〜に足らず」**。本文は冒頭から「外人の為に道ふに足らざるなり」まで（結びは語注にあらすじ）。

あらすじ＝晋の太元年間、武陵の漁師が谷川をさかのぼって桃の花の林に行き当たり、山の小さな穴をくぐると、人々がなごやかに暮らす村があった。村の人は、先祖が秦の戦乱を避けて来て以来外の世界とへだたり、漢の王朝さえ知らなかった。漁師は数日もてなされて村を去るとき、「外の世界の人に話すほどのことではない」と告げられる。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

晋（しん）の太元（たいげん）中（ちゅう）、武陵（ぶりょう）の人（ひと）魚（うを）を捕（と）らふるを業（げふ）と為（な）す。渓（けい）に縁（よ）りて行（ゆ）き、①路（みち）の遠近（をんきん）を忘（わす）る。忽（たちま）ち桃花（たうくわ）の林に逢（あ）ふ。岸を夾（はさ）むこと数百歩、中（なか）に雑樹（ざつじゅ）無く、芳草（はうさう）鮮美にして、落英（らくえい）繽紛（ひんぷん）たり。漁人（ぎよじん）甚（はなは）だ②之（これ）を異（あや）しむ。復（ま）た前（すす）み行きて、③其（そ）の林（はやし）を窮（きは）めんと欲（ほつ）す。林水源に尽（つ）き、便（すなは）ち一山を得（う）。山に小口（せうこう）有り、髣髴（はうふつ）として光有るがごとし。④便（すなは）ち船（ふね）を舎（す）て、口より入（い）る。初めは極（きは）めて狭く、⑤纔（わづ）かに人（ひと）を通（つう）ずるのみ。復た行くこと数十歩、⑥豁然（くわつぜん）として開朗（かいらう）なり。土地は平曠（へいくわう）にして、屋舎（をくしや）儼然（げんぜん）たり。良田（りやうでん）美池（びち）桑竹（さうちく）の属有り。阡陌（せんぱく）交（こもごも）通じ、鶏犬（けいけん）相（あひ）聞（きこ）ゆ。其の中に往来（わうらい）し種作（しゆさく）する男女（だんぢよ）の衣著（いちやく）は、悉（ことごと）く外人（ぐわいじん）のごとし。⑦黄髪（くわうはつ）垂髫（すいてう）、⑧並（なら）びに怡然（いぜん）として自（みづか）ら楽（たの）しむ。漁人を見て、乃（すなは）ち大（おほ）いに驚き、従（よ）りて来（き）たる所を問ふ。⑨具（つぶさ）に之（これ）に答（こた）ふ。⑩便（すなは）ち要（むか）へて家（いへ）に還（かへ）り、酒を設（まう）け鶏（にはとり）を殺して食（しよく）を作る。村中（そんちゆう）此の人有るを聞き、咸（みな）来たりて問訊（もんじん）す。自（みづか）ら云ふ、「⑪先世（せんせい）秦（しん）の時の乱を避（さ）け、妻子（さいし）邑人（いふじん）を率（ひき）ゐて此の絶境（ぜつきやう）に来たり、復た出（い）でず。遂（つひ）に外人と間隔す」と。⑫今（いま）は是（こ）れ何（いづ）れの世（よ）なるかと問（と）ふ。⑬乃（すなは）ち漢（かん）有るを知らず、⑭魏晋（ぎしん）を論（ろん）ずる無（な）し。此の人（ひと）一一（いちいち）為（ため）に具（つぶさ）に聞く所を言ふ。皆（みな）歎惋（たんわん）す。余人（よじん）各（おのおの）復た延（ひ）きて其の家に至らしめ、皆（みな）酒食（しゆしよく）を出（い）だす。停（とど）まること数日（すうじつ）、辞去（じきよ）す。此の中の人（ひと）語（つ）げて云ふ、「⑮外人（ぐわいじん）の為（ため）に道（い）ふに足（た）らざるなり」と。

語注　晋＝東晋。「太元」はその年号。武陵＝郡の名。今の湖南省のあたり。渓＝谷川。雑樹＝ほかの木。落英＝散る花びら。繽紛＝入り乱れるさま。髣髴＝かすかに。儼然＝きちんと整うさま。阡陌＝田畑のあぜ道。衣著＝服装。問訊＝あれこれたずねること。邑人＝村の人々。絶境＝世間から遠く離れた土地。歎惋＝ため息をついて嘆くこと。延く＝招く。※原典には「舎」を「捨」に作る本も多く、「著」を「着」に作る本もある（意味は同じ）。「便要還家」の後に「為」がある本もある。※「悉く外人のごとし」は「外の世界の人と同じ」とする説と「よその国の人のよう」とする説がある。書き下しも「渓（たに）に縁（そ）ひて」「魏晋に論無し」などと読む教科書がある。お使いの教科書に合わせてください。※この後＝村を出た漁師は帰り道に目印をつけ、太守（郡の長官）に知らせた。太守の使いは迷って道を見つけられず、南陽の劉子驥も訪ねようとして果たせないまま病死し、その後は道をたずねる者もいなくなった。

A　語句の意味と読み（1〜7）

（1）②「之（これ）を異（あや）しむ」の「異しむ」の意味を書け。

（2）④「便（すなは）ち船（ふね）を舎（す）て」の「舎て」の読みを現代仮名遣いの平仮名で書き、意味も書け。

（3）⑥「豁然（くわつぜん）として開朗（かいらう）なり」の意味を書け。

（4）⑦「黄髪（くわうはつ）垂髫（すいてう）」とは、どのような人々のことか。

（5）⑧「並（なら）びに怡然（いぜん）として自（みづか）ら楽（たの）しむ」の「怡然として」の意味を書け。

（6）⑩「便（すなは）ち要（むか）へて家（いへ）に還（かへ）り」の「要へて」の読みを現代仮名遣いの平仮名で書き、意味も書け。

（7）⑪「先世（せんせい）秦（しん）の時の乱を避（さ）け」の「先世」の意味を書け。

B　句法（8〜13）

（8）③「其（そ）の林（はやし）を窮（きは）めんと欲（ほつ）す」の「〜んと欲す」は、どのような意味を表すか。この部分の訳もあわせて書け。

（9）④「便（すなは）ち船（ふね）を舎（す）て」の「便ち」の意味を書け。

（10）⑤「纔（わづ）かに人（ひと）を通（つう）ずるのみ」の「纔かに〜のみ」は、何という句法か。訳もあわせて書け。

（11）⑬「乃（すなは）ち漢（かん）有るを知らず」の「乃ち」は、ここではどのような意味か。

（12）⑭「魏晋（ぎしん）を論（ろん）ずる無（な）し」の「論ずる無し（無論）」の意味を書け。

（13）⑮「外人（ぐわいじん）の為（ため）に道（い）ふに足（た）らざるなり」の「〜に足らず」は、どのような意味を表すか。

C　主語・指す内容（14〜17）

（14）②「之（これ）を異（あや）しむ」の「之」は、何を指すか。

（15）⑨「具（つぶさ）に之（これ）に答（こた）ふ」の主語は誰か。また「之」は何を指すか。

（16）⑩「便（すなは）ち要（むか）へて家（いへ）に還（かへ）り」で、招いた人と、招かれた人はそれぞれ誰か。

（17）⑫「今（いま）は是（こ）れ何（いづ）れの世（よ）なるかと問（と）ふ」で、たずねたのは誰か。また、誰にたずねたのか。

D　口語訳（18〜21）

（18）①を含む「渓に縁りて行き、路の遠近を忘る」を口語訳せよ。

（19）⑦⑧を含む「黄髪垂髫、並びに怡然として自ら楽しむ」を口語訳せよ。

（20）⑬⑭を含む「乃ち漢有るを知らず、魏晋を論ずる無し」を口語訳せよ。

（21）⑮を含む「外人の為に道ふに足らざるなり」を口語訳せよ。

E　内容・記述（22〜25）

（22）⑥「豁然（くわつぜん）として開朗（かいらう）なり」とあるが、どのような変化か。直前の「初めは極めて狭く」と対比して説明せよ。

（23）「土地は平曠にして」から⑦⑧の「自ら楽しむ」までの部分で、この村はどのような所として描かれているか。四十字以内で書け。

（24）⑪「先世（せんせい）秦（しん）の時の乱を避（さ）け」とあるが、村の人々が⑬のように漢の王朝さえ知らなかったのはなぜか。説明せよ。

（25）⑮「外人（ぐわいじん）の為（ため）に道（い）ふに足（た）らざるなり」と言った村の人は、漁師にどうしてほしいと思っているのか。説明せよ。

F　文学史・故事（26〜28）

（26）⑧のように人々がなごやかに暮らすこの村の話から生まれた、「俗世間を離れた、争いのない平和な理想の地」を表す、「郷」の字で終わる三字の語を書け。

（27）この文章の作者陶淵明（とうえんめい）は、どの王朝の時代の人か。また、どのような詩をつくった詩人として知られるか。

（28）陶淵明が、彭沢（ほうたく）の県令（県の長官）をやめて故郷の田園へ帰るときの思いをつづり、「帰りなんいざ」の書き出しで知られる作品の名を書け。

【テスト直前チェック】この三つ　❶「無論」は「言うまでもない」。「乃ち漢有るを知らず、魏晋を論ずる無し」＝「なんと漢があったことさえ知らず、まして魏・晋は言うまでもない」。今の中国語の「〜にかかわらず」とまちがえない。 **❷「黄髪垂髫」＝老人と子ども。**黄ばんだ白髪の老人と、髪をたらした子ども。「並びに怡然として自ら楽しむ」とセットで、村の平和なくらしを表す。 **❸「外人の為に道ふに足らざるなり」は遠回しの口止め。**「外の世界の人に話すほどのことではない」＝「話さないでほしい」。記述問題の答えは、この気持ちと「秦の乱を避けて外とへだたった」村の由来に集まります。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる